

令和3年度 第1回アーバンデザインセミナー

UDCBK

草津の未来につなぐSDGs

滋賀県立大学 地域共生センター

地域連携コーディネーター 谷口 嘉之



SDGsについて

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsに向けた行動の10年

～2030年を自分たちの手でどんな社会にするか？～



**DECADE
OF >>>
ACTION**

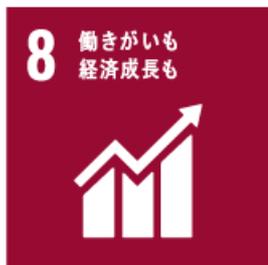
SDGsの構造 ①

17の目標

169のターゲット

232の指標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 貧困をなくそう



2 飢餓をなくす



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



8 働きがいも
経済成長も



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊か
守ろう



【ターゲット】

1.1 2030年までに、現在1日1.90USドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。

【指標】

1.1.1 国際的な貧困ラインを下回って生活している人口の割合

【ターゲット】

1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。

【指標】

1.2.1 各国の貧困ラインを下回って生活している人口の割合

1.2.2 各国の定義に基づき、あらゆる次元で貧困ラインを下回って生活している男性、女性及び子供の割合

・
・
・

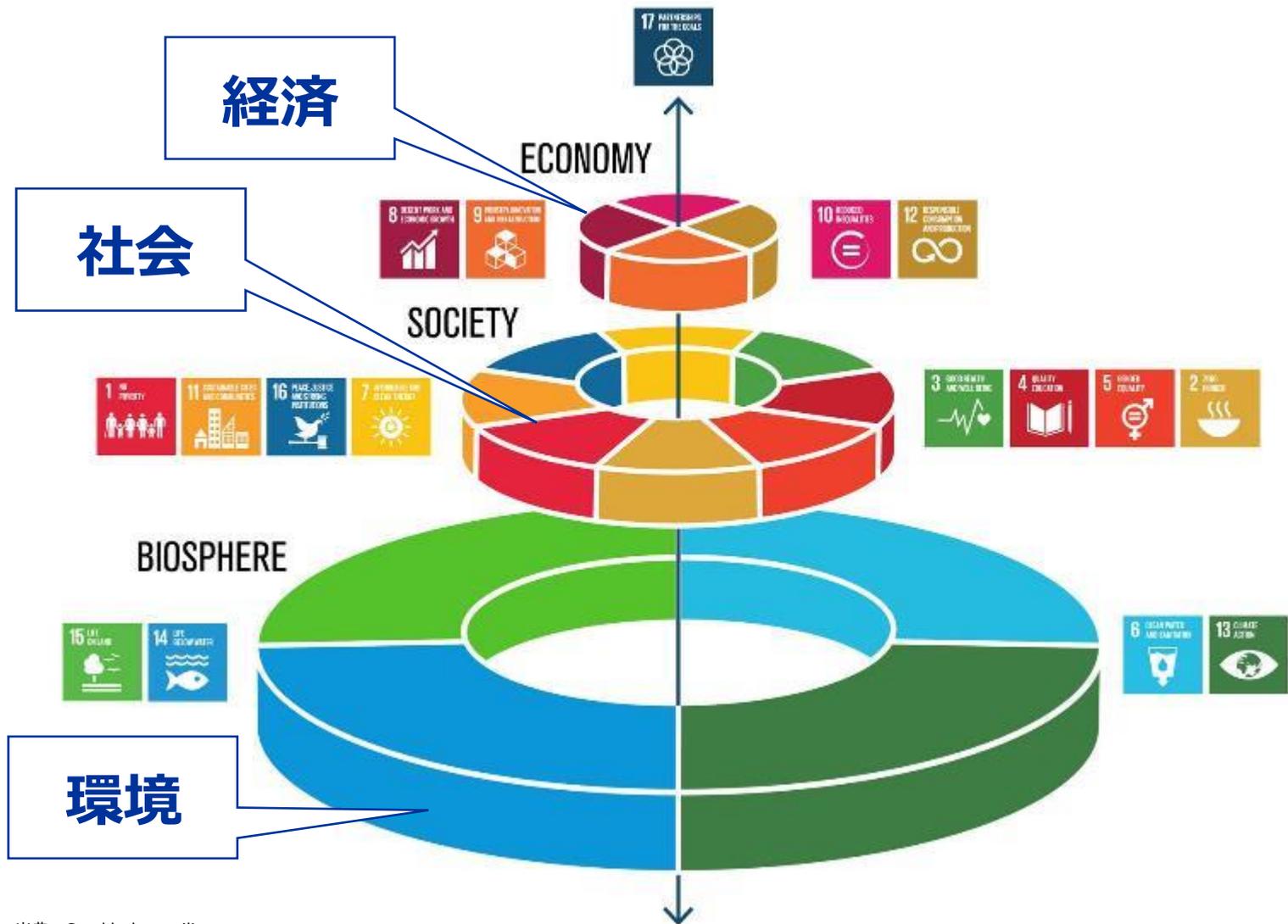
6 安全な水とトイレ
を世界中に



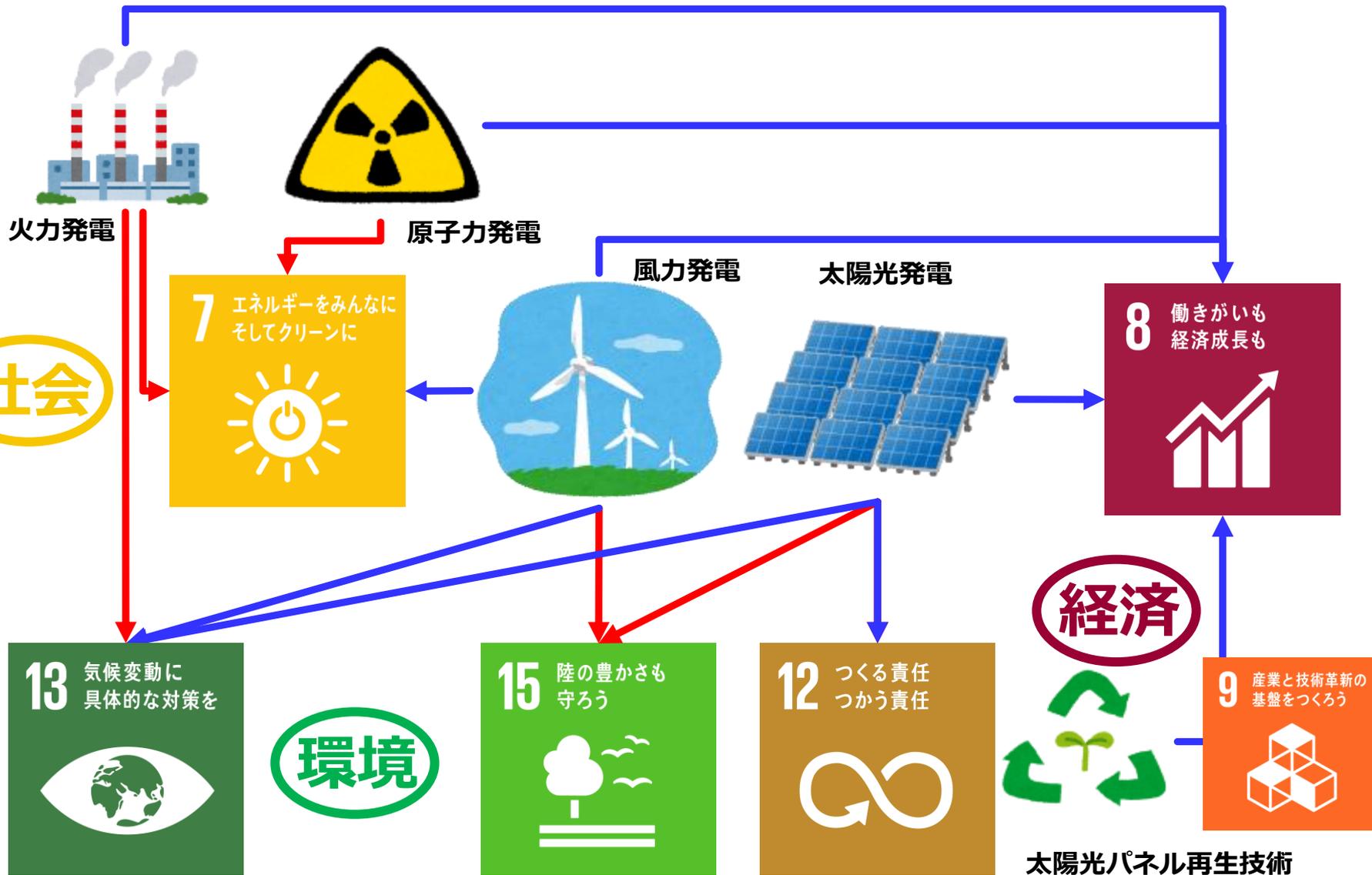
12 つくる責任
つかう責任



SDGsの構造② = ウェディングケーキモデル



SDGsの構造③ = 目標間の関係性



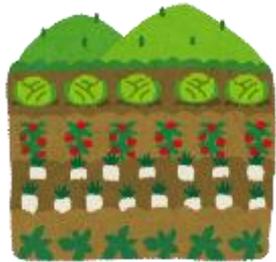
SDGsへの取組方法 パートナーシップでの解決

12 つくる責任
つかう責任



【ターゲット 12.3】

2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の1人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。



規格外品野菜

加工残渣

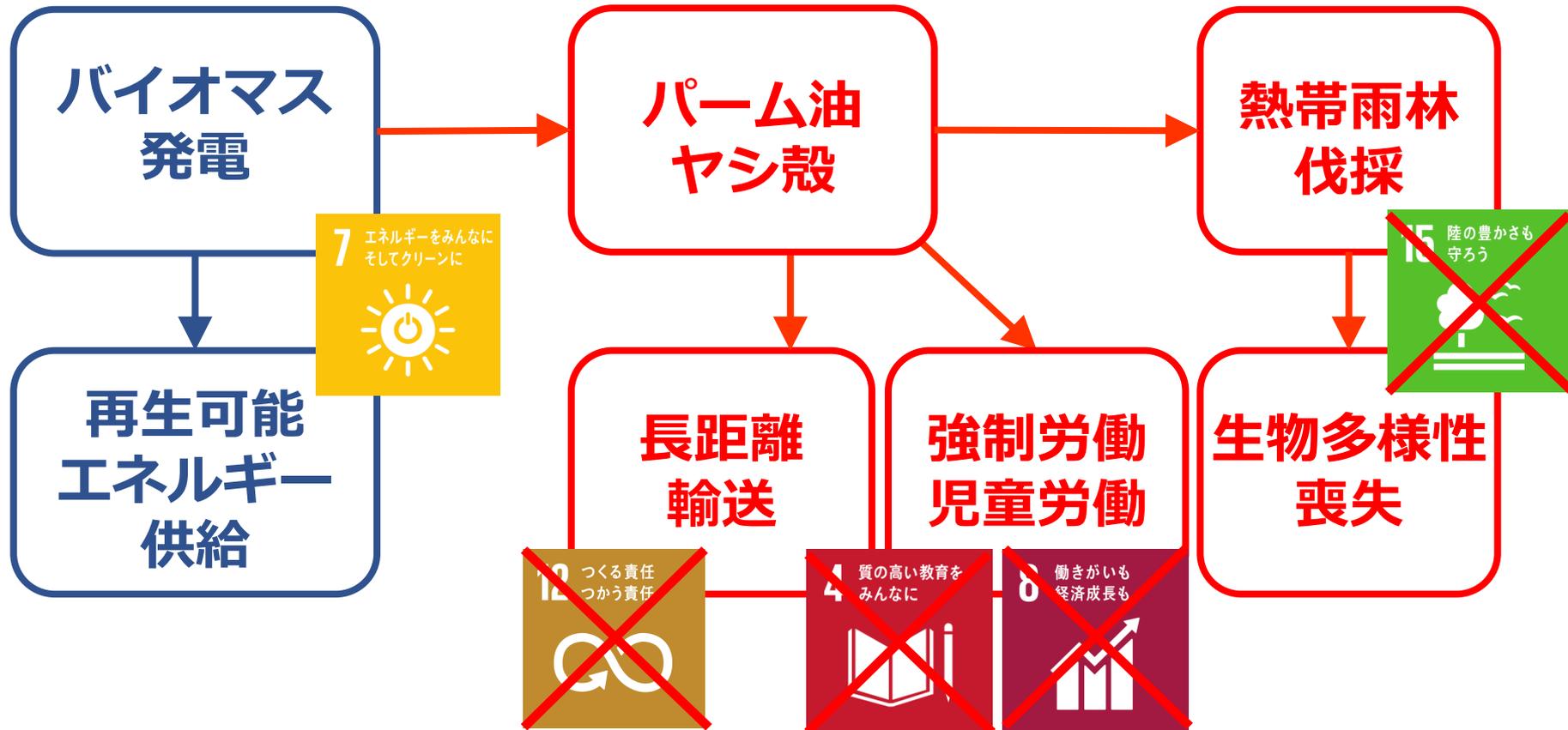
賞味期限切れ

食べ残し



SDGsウォッシュ(偽装SDGs)に注意

実体が伴わないにもかかわらず、SDGsの達成に貢献しているように見せかけること。





マザーレイクゴールズ (MLGs) について

マザーレイクゴールズ (MLGs) アジェンダ (素案) を作成しました！



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から

これまでの10年間、マザーレイクフォーラムは、びわ湖や流域・水系全体とその暮らしに関わるさまざまな主体がゆるやかにつながって開きあいを築ける「びわコミ会議」などの場づくりや、びわ湖保全の新たなしくみづくりにチャレンジする創発的取組への寄付金を活用した支援活動などを通じて、「マザーレイク21計画（琵琶湖総合保全整備計画）＜第2期改定版＞」に描かれているビジョンの達成に向けた進捗管理を担ってまいりました。

また、この1年間は、これまでの10年間を振り返り、これからの10年間を展望する取組として「びわ湖との約束」を広く募集したところ、たくさんの方がSNS等から参加してくださり、各々の思いを発信してくださいました。

「マザーレイク21計画」の期間が2021年3月末で終了することに伴い、マザーレイクフォーラムもその役割を終えることとなります。しかし、より多くの新しい世代の人びとが、より多様な形でびわ湖や暮らしとの新しい関わり方を創造しつつある今こそ、約40年前の「せっけん運動」以来連綿と続いてきた、自分たちの環境を自分たちで守り活かす「自治の精神」を途切れることなく次世代に引き継ぐことの重要性を強く感じています。

そこで、これまでにマザーレイクフォーラムが積み上げてきた「びわコミ会議」や「びわ湖との約束」などの集大成として、みんなで作る、みんなで取り組める“びわ湖版SDGs”「マザーレイクゴールズ (Mother Lake Goals: MLGs)」づくりの検討を進めてきました。

メンバーログイン

マザーレイクフォーラムのコミュニティに参加しませんか？[ここをクリックしてメンバー登録（無料）](#)をしてください。

ユーザー名またはメールアドレス

パスワード

ログイン状態を保存する

メニュー

- ▶ ホーム「マザーレイクフォーラムへようこそ」
- ▶ マザーレイクゴールズ (MLGs) について
- ▶ 広報大使よりごあいさつ
- ▶ マザーレイクフォーラムとは
 - ▶ マザーレイクフォーラム規約
- ▶ マザーレイク21計画について
- ▶ 過去の更新情報
- ▶ びわコミ会議
- ▶ マザーレイクフォーラム運営委員会
- ▶ 活動カレンダー
- ▶ マザーレイクフォーラム連携事業
- ▶ 登録団体・個人リスト
 - ▶ 団体・個人活動登録エントリーシート
- ▶ マザーレイクフォーラムへの参加登録

2030年のびわ湖とびわ湖に根ざす暮らしに向けた13のゴール

- 1
清らかさを感じる水に
- 2
豊かな魚介類を取り戻そう
- 3
多様な生き物を守ろう
- 4
水辺も湖底も美しく
- 5
恵み豊かな水源の森を守ろう
- 6
森川里湖海をつなぐつながりを健全に
- 7
びわ湖のためにも温室効果ガスの排出を減らそう
- 8
気候変動や自然災害に強い暮らしに
- 9
生業・産業に地域の資源を活かそう
- 10
地元も流域も学びの場に
- 11
びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう
- 12
水とつながる祈りと暮らしを次世代に
- 13
つながりあって目標を達成しよう

私たちは、マザーレイクフォーラム10年間の活動の集大成として、これまでに開催した「びわコミ会議」や「びわ湖との約束」でSNS等から寄せられた様々な思い・願い・決意などを集約・整理し、オンラインワークショップ等で多様な分野の方々とその内容を何度も議論した末に、「2030年のびわ湖とびわ湖に根ざす暮らしに向けた13のゴール」を設定しました。

滋賀県立大学のSDGsへの取組み

～大学と地域の連携によるSDGs地域化拠点を目指して～



滋賀県立大学

1995年(平成7年) 開学

基本理念 : 「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」

モットー : 「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」

大学の目指すところ : 「人が育つ大学」



滋賀県立大学SDGs宣言

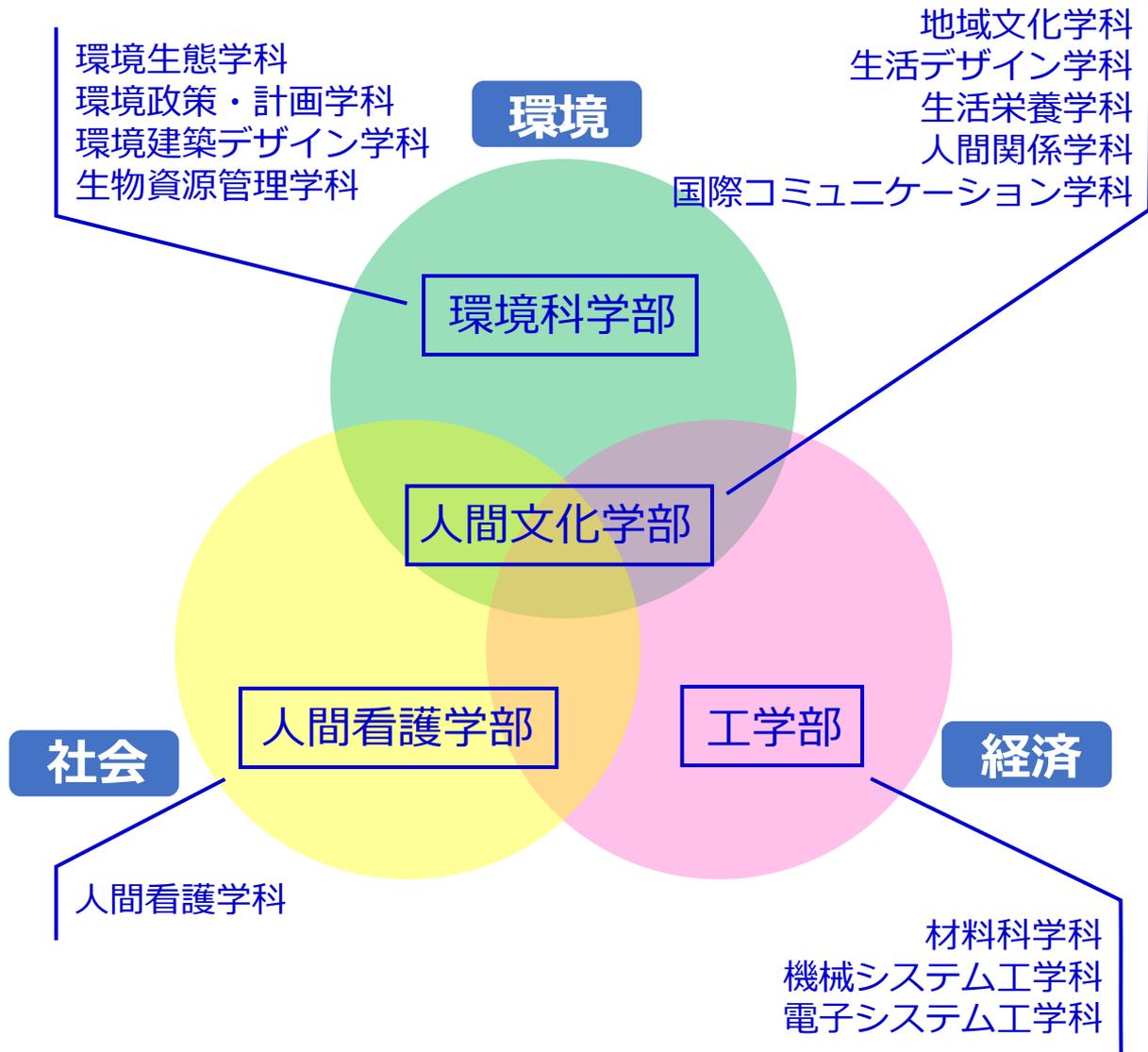
2018年6月16日

- S** 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
D 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
G グローカルな思考と実践をもって
S 世界と地域の発展に貢献します

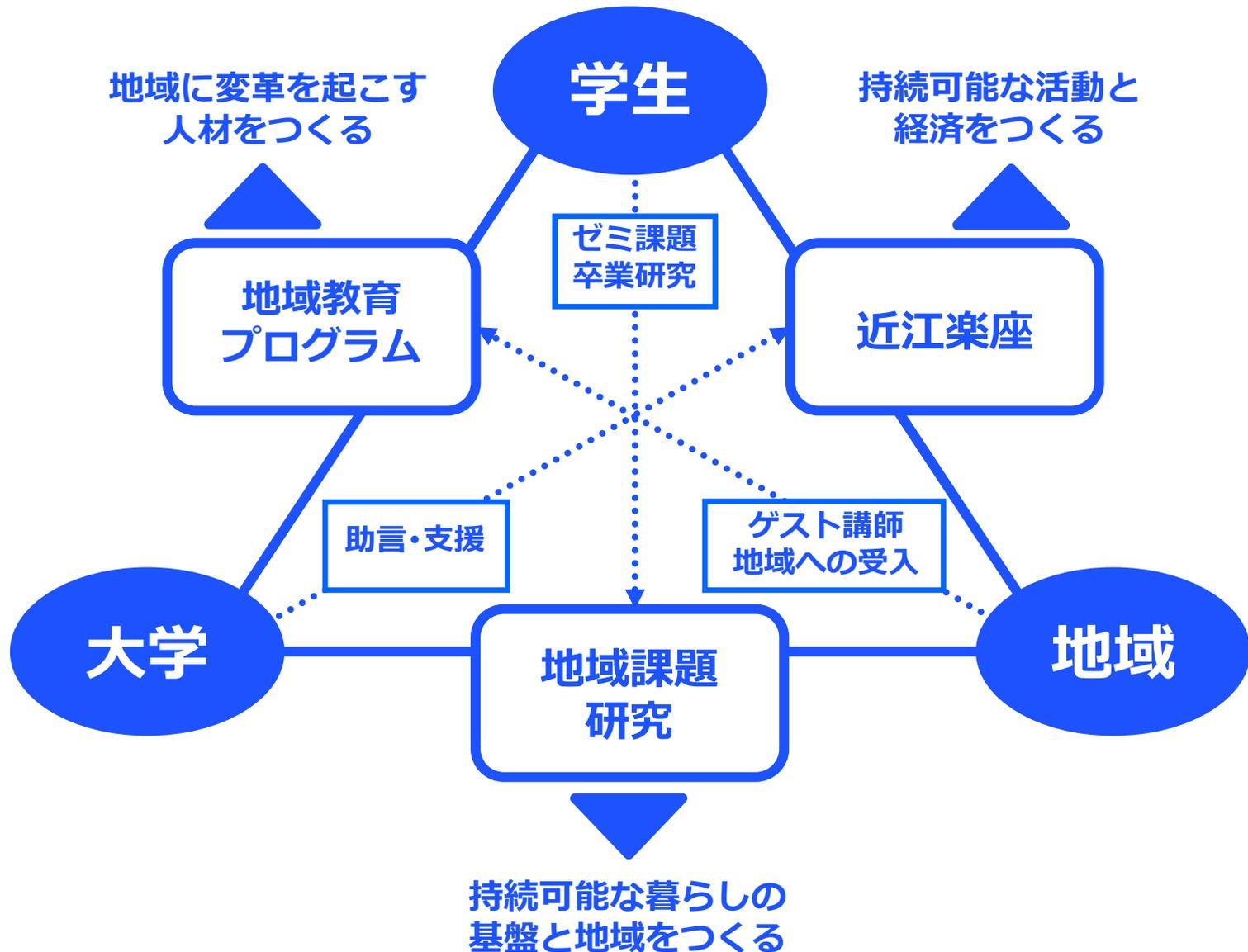




SDGsとの親和性の高い ユニークな学部編成



SDGs達成に向けた「共育共創」のプラットフォーム



キャンパスSDGsびわ湖大会

SDGsに取り組む学生(大学生に限らず、小学生から高校生も)が日頃の活動を紹介し、またお互いに意見や情報を交換する場として、開催しています。

2020年度は「『子ども・若者』と『大人』がともに歩むSDGsへの10年」をテーマとしてオンライン開催しました。



オンライン開催

キャンパスSDGs びわ湖大会 2020

2020.11.21 (土) 10:00-17:00

～「子ども・若者」と「大人」がともに歩むSDGsへの10年～

10:10 - 11:50 コロナ禍からの学びと未来にむかす「あつまれ！がくせいのお森」
 新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は大きく変わりました。このような日々を過ごす大学生たちは何を学び、どんな気づきを得ているのでしょうか。この疑問を今後の社会にどう活かすか学生と教員の意見交換します。
 【講師】宇野 滋賀県立大学、高橋 大祐、三浦 美穂 滋賀大学 (学生)

13:00 - 14:10 SDGsの最先端にいるプロフェッサー！
 基調講演 (一般社団法人SDGs 知能社会推進委員会 代表理事 上田 聡一氏)
 SDGsは目標であるだけでなく、具体的な行動を知覚するには、「子ども・若者」が主体的に「学び」を通して実践し、「大人」がサポートをしてくれることがとても大切です。実際の事例でSDGsの学びを実践し、若い世代の活躍を応援される上田聡一さんに、「行動の10年」へのヒントの方向性をお伺いします。

14:20 - 16:45 「子ども・若者」マイプロジェクト報告
 県内の小学生から大学生までがSDGsに向けた活動を報告を行います。
 ・滋賀のSDGsへの取組を大学が支援する「SHIGA SDGs Studio」
 ・高知の地方を支援するイベント「おきなまを応援するおきなまつり」
 ・女子活躍を目指すもの産産院に「いなるちしろらじっくプロジェクト」
 ・地域の魅力を再発見「地域活動Xふるさととの関わり」など

11/20(日)9:30-19:30 プレイベント開催！
 滋賀県×滋賀県立大学×内閣府 地方創生SDGsフォーラム
 「SDGsと教育」
 「地方創生SDGsの推進」
 「100人に1人のSDGs」
 「地域、教育の未来」
 「特別ゲスト出演」

参加方法
 ①QRコードより、HPにアクセスし、申込フォームより申込申込み
 ②申込完了後1週間以内、当日開催するURLを毎日メールにて案内
 ③当日はYouTubeにて視聴し、SDGs (スライド)をダウンロードして質疑応答も。

主催：公立大学法人 滋賀県立大学
 共催：びわ湖東北部地域連携推進委員会・滋賀県
 問合せ先：滋賀県立大学 地域社会センター(窓口)
 メール：sh1@office.usp.ac.jp 電話：0749-20-6062

県大フードロス削減アクション!

コロナ禍の影響でアルバイト収入や仕送りが減少し、困窮していた学生への食糧支援をきっかけに繋がった近隣の農業法人の方に協力いただき、規格外で出荷できない農作物を県大生に配布し、食品ロスを削減する取組を始めました。昨年度は玉ねぎ、キャベツ、ブロッコリーなどの配布を行いました。

その他、フードバンクを通じて提供いただいた、自治体や企業の賞味期限が近づいた災害備蓄品の配布も実施しました。



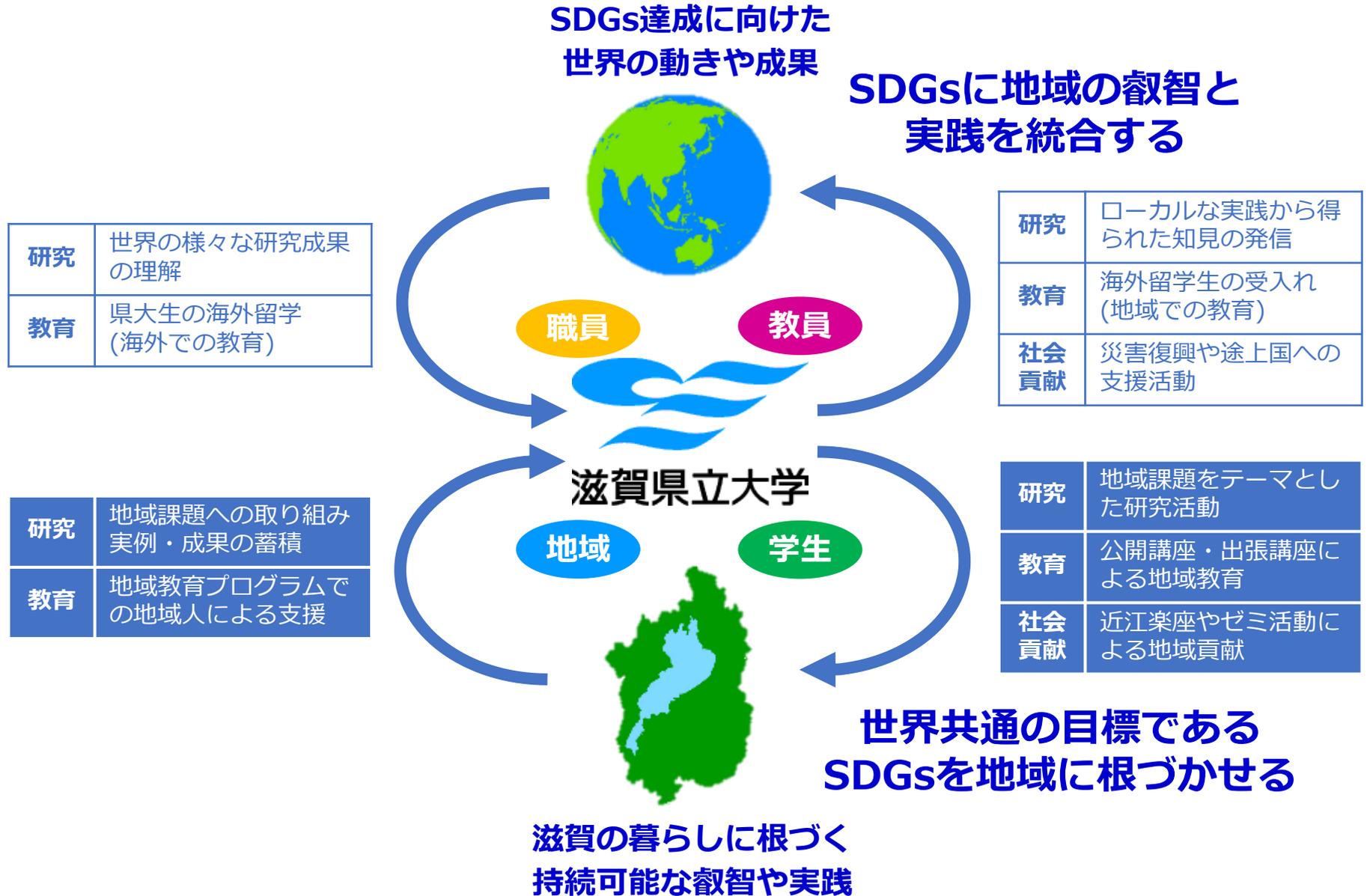
地元農産物提供

県大フードロス削減アクション!

配布食品は、フレンドリーファームいしでち様から御提供いただきました。

滋賀県立大学ではSDGsの達成に向けた様々な活動に取り組んでいます。

滋賀県立大学は、誰ひとり取り残さない持続可能な社会の実現に向けて、**SDGs地域化拠点**となります。



滋賀県立大学は、開学当初より
滋賀の暮らしに根づく
持続可能な叡智や実践から学び、
その成果を地域に還元しています。



SDGsに向けての取組み へのアイデア

男女共同参画への取組み

“過去のあたりまえ”から“未来のあたりまえ”に変える
(男性中心の社会) (みんなが共生できる社会)



SDGsの課題の関係性を意識する

環境・社会・経済の3つの側面を統合的に向上

… 組織の壁問題

(フードロス削減は地域連携か学生支援か?)



食品ロス削減

フードバンクやこども食堂との連携

飢餓や貧困との関係



緑豊かな自然環境の保全

市民による環境計画への参画

… まちの一部としての視点

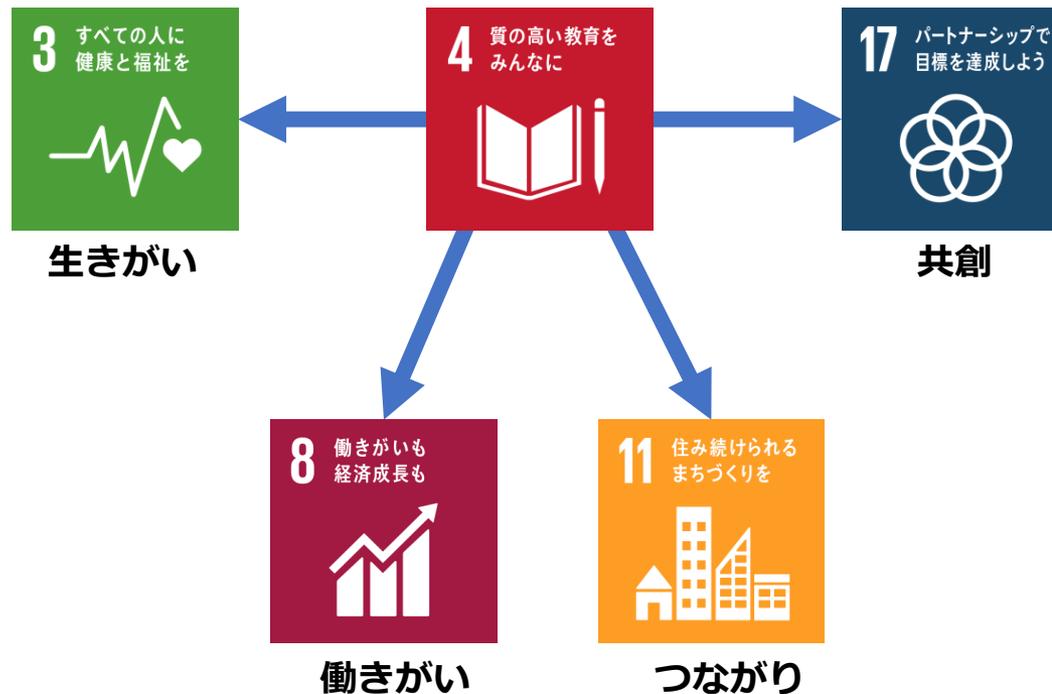


11.7
2030年までに、女性、子供、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。

12.8
2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。

まなび続ける社会・生涯学習の充実

インプット講座からアウトプット講座へ



総合学習・ESD教育

子どもたちから大人が学ぶ



「子ども・若者」と「大人」が
ともに歩むSDGsへの10年

ー2020年度 滋賀県立大学
「キャンパスSDGsびわ湖大会」 大会テーマ

「若者は明日のリーダーではない。
今日のリーダーだ」

ーアントニオ・グテーレス国連事務総長

現在の立場を離れて考える = 仮想将来世代になる

フューチャー・デザインで考える



町民が主体的に考える町



未来につよいまち。やはば



SDGsに向けた行動の10年

～2030年を自分たちの手でどんな社会にするか？～



**DECADE
OF >>>
ACTION**